

1. 調査目的等

中学校全学年の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

2. 学校ごとの指標

当該学年の前年度偏差値を、すべての教科で1ポイント以上上げる。

3. 指標にむけての取組

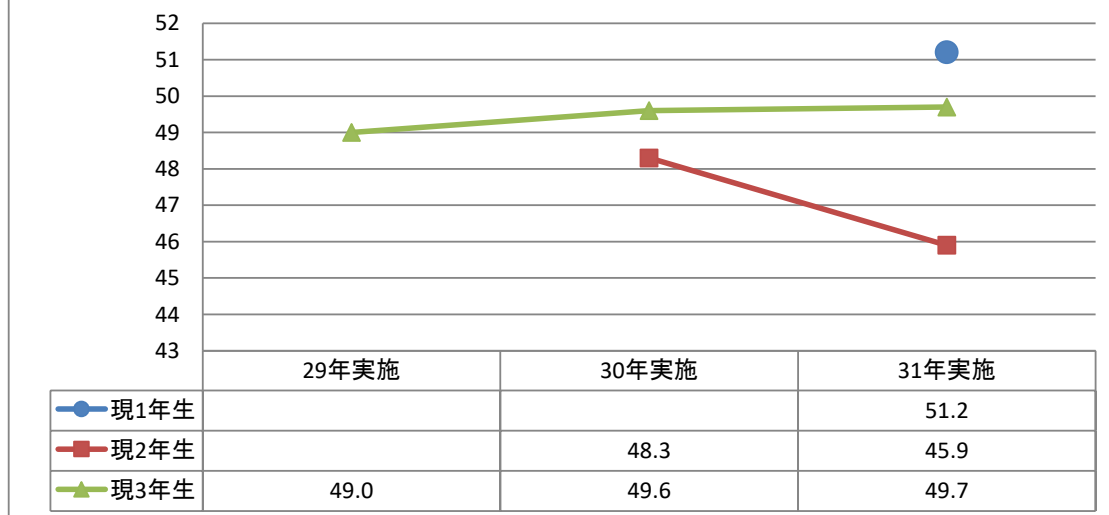
- 少人数指導や個別指導、習熟の程度に応じた指導、学力実態の分析に基づいた個に応じた指導を行う。
- 自学ノートと課題プリント(毎日1枚)を徹底し、家庭学習の定着を図る。
- 基礎・基本の定着を図るために、考査前のチャレンジタイム、考査後のフォローアップタイムを行う。

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
本校(A)	48.5	49.0	49.6	50.3	48.9
嘉麻市(B)	47.0	47.3	47.9	49.3	48.8
(A)－(B)	1.5	1.7	1.7	1	0.1
標準偏差値との差 (A)－(50)	-1.5	-1	-0.4	0.3	-1.1

各学年の推移



5. 各学校における分析

- 全教科において、個に応じた少人数指導を行うことができたことで、特に3年生では偏差値の数値を維持することができた。
- 全学年において、自学と課題プリントの指導を徹底させたことで、家庭学習の定着ができた。
- 考査前のチャレンジタイムと考査後のフォローアップタイムを活用したことで、各教科の重要ポイントを定着させることができた。

6. 各学校における今後の取組

- 習熟の程度に応じた指導や発展的な学習、補充的な学習等、学力実態の分析に基づいた個に応じた指導の充実を図る。
- 過去の調査問題や教材集・活用力診断テストを活用した授業を実施する。
- 基礎・基本の定着を図る定期考査前後のチャレンジタイム、フォローアップタイムの充実を図る。
- 家庭学習の定着を一層図るために、自学ノートと課題プリントを徹底する。
- 小中において、自学や家庭学習に関して教員間で一層の共通理解を進め、質の向上を目指す。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎今後の取組を具体化し推進することができるように、特に、次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
- ◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証改善委員会を開催し、個に応じた習熟度別指導を推進する。また、学力向上推進員による若年層の教員を対象とした授業改善指導を実施する。
- ◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証改善委員会を開催し、「思考力・表現力等を問う定期考査」の実施、それに伴う授業改善を推進する。また、各学校が作成した「思考力・表現力等を問う定期考査」問題を交流する場を設定することで、質の向上を図る。
- ◆嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組の具体を提示する。